



公益財団法人吉野川紀の川源流物語は
令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を
受賞しました

令和7年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

目 次

I. 法人の概要	1
II. 事業の状況	3
事業実施リスト	3
公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業	7
公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業	9
公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業	11
公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業	15
収益事業（受託事業）	17
パブリシティ（新聞ほか掲載記事）	20

Ⅰ. 法人の概要

(令和8年3月31日現在)

法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語
設立年月日	平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立
定款に定める目的	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。
定款に定める事業内容	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに付帯する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 1374 番地の1

<p style="text-align: center;">役 員 等</p>	<p>評議員（五十音順）</p> <p>伊藤 康裕（川上村住民課長） 浦西 勉（元龍谷大学教授） 新井 寿彦（川上村教育委員会教育次長） 宗野 孝信（和歌山県地域振興部地域政策局地域振興課長） 谷本 光司（一般社団法人 近畿建設協会理事長） 堤 健（橋本市上下水道部長） 中家 秀貴（大阪工業大学 学長室事務局長） 春増 薫（川上村議会総務文教委員長） 松本 博行（川上村議会議長） 三宅 浩（奈良県環境森林部長）</p> <p>理事（代表理事・業務執行理事を除き五十音順）</p> <p>泉谷 隆夫 代表理事・理事長（川上村長） 森内 太 代表理事・副理事長（川上村副村長） 今福 和男 業務執行理事（元川上村水源地課長） 市川 圭造（元和歌山市立教育研究所長） 上田 力也（元橋本市総合政策部長） 高木 康人（奈良県環境森林部 水・大気環境課長） 西久保 智美（コミュニティライター） 橋本 裕行（明治大学文学部兼任講師 樞原考古学研究所共同研究員） 松谷 圭子（吉野町おはなしらんどカンブリア代表） 宮口 侗廸（早稲田大学名誉教授） 横田 岳人（龍谷大学 先端理工学部 環境科学課程准教授）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員） 中島 誠（税理士）</p>
<p style="text-align: center;">主 な 会 議</p>	<p>事業・会計監査 5月22日</p> <p>定例理事会 6月6日（前年度事業報告及び決算の件、基本財産の運用の件、役員等関係者との利益相反取引の件、定時評議員会の招集、報告事項）</p> <p>定時評議員会 6月23日（前年度事業報告及び決算書類等の承認、理事の選任の件、評議員選任の件、基本財産の運用の件、）</p> <p>定例理事会 3月24日（次年度事業計画及び収支予算書について、役員等関係者との利益相反取引について、臨時評議員会の招集について、報告事項ほか）</p> <p>臨時評議員会 3月31日（定款変更の件）</p>

II. 事業の状況

事業実施リスト

公益事業 I		環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業			
吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する。					
	時期	回数	参加数等	概要	
「吉野川源流－水源地の森」体験プログラムの提供					
定例水源地の森環境学習ツアー	10月	1回	19名	水源地の森の環境学習ツアーを通じ、水源地の村づくりの協働できる人材の育成を目的に、源流人会会員を対象に実施。	
森づくり体験プログラムの提供					
源流学の森等での保全活動	11月	3回	55名	計画的な森林育成が保全に役立つことを伝えるため、森林の維持管理作業の見学・体験を実施。	
山の神 神事	6・11・1月	3回	24名	森林とかかわりの深い川上村の伝統的風習の継承を目的に、公募で参加者を募集し、山の神神事を実施。	
体験学習を通じた環境学習の実施及び支援					
団体毎の川上村体験学習	随時	23件	508名	団体(企業含む)研修等での利用。「水源地の森」散策や森林の維持管理作業等の体験を実施。	
学校教育団体支援	随時	66件	3,187名	小中高校及び大学からの見学対応ならびに出張源流教室(オンラインを含む)による教育支援を実施。	
森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー	7・8・2月	5回	102名	近畿ESDコンソーシアムとの連携事業で教員のための授業計画づくりを支援。実践報告会(2/7)を実施。	
水源地域の環境保全にかかわる人材の育成					
源流人会の運営	通年	—	個人 62 家族 21 団体 8	事業推進にあたり相互に交流し、連携や親睦を深めながら環境保全についてともに考え、行動する人材を育成。	
調査報告会の開催	1月	1	43名	様々な協力者が関わり、当財団の事業や調査研究が支えられていることを、調査報告を通して発信。	
川上村民の環境クラブ活動への支援	通年	—	—	講師派遣等の事業支援により、村民団体主催行事における環境保全に係る人材の育成に協力。	

公益事業Ⅱ		流域交流・啓発にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。					
	時期	回数	参加数等	概要	
水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施					
源流のつどい （「未来への風景づくり」ほか）	4・5・9月	4回	38名	水源地の村づくりの関係人口の創出を図るため、旧白屋地区の環境保全活動、村内の地域資源を活用した環境学習会などを実施。	
流域関係団体との交流 （夏休みワークショップ大集合）	8月	1回	380名	村民講師や流域の施設・団体との連携を深めるためワークショップや物販催事を実施。環境保全の全国催事「トヨタソーシャルフェス!!」と合同開催。	
水源地の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成					
流域等各地へのPRキャラバン	随時	5回	—	和歌山市役所ロビー公開出前講座、橿原市昆虫館「虫まつり」、松阪市「牛まつり」、「剣道交流大会」、和歌山市和歌浦・しらすまつりなどに参画。	
機関誌『ぼたり』刊行	7・11・3月	3回	—	各事業報告・調査レポートの他、財団の取り組みに連携する企業・団体・個人の紹介を掲載した機関紙を発行。	
水源地の森守募金	通年	—	172,767円	「水源地の森」内での防鹿柵設置や、啓発チラシの印刷等に活用。	

公益事業Ⅲ		源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。					
	時期	回数	参加数等	概要	
水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施					
吉野川紀の川しらべ隊	4・5・6月	3回	74名	参加者を公募し、吉野川紀の川流域の自然や文化について観察会型調査を実施。	
村民や大学、教育委員会等と連携した自然調査・人文調査	通年	—	—	源流部及び吉野川・紀の川流域の自然実態の比較調査を実施。	
	通年	—	—	山の神の調査で集落の話者にヒアリング調査を実施。	
	通年	—	—	川上村の昔の暮らしや郷土料理の再現とヒアリング調査を実施。	
「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施					
水源地の森保全対策調査	通年	—	—	大学や流域施設と連携し、水源地の森の健全性を示すシンボル種の調査を実施。	
水源地の森下層植生調査	6月	2回	6名	防鹿柵設置個所の下層植生の回復状況を調査。	

※「公益事業Ⅲ」・次頁に続く

公益事業Ⅲ		源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
		時期	回数	参加数等	概要
源流部における斜面崩壊地での対策実態調査					
ミズナラの集団枯死に伴う環境変化等の観察		7・10月	2回	3名	ミズナラの集団枯死に伴う樹林環境変化の継続的なモニタリングの実施。
水源地の森における防鹿柵調査		6月	1回	3名	生態系の仕組みを応用した樹林更新を促す試験的な取り組みを、森守募金を活用して実施。

公益事業Ⅳ		拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業			
水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。					
		時期	回数	参加数等	概要
「森と水の源流館」管理		通年	308日	利用者 10,142名	日常の維持・管理、運営、定期点検、清掃、補修。常設展示・企画展示・期間展示・季節展示等の企画・運営、リーフレット等の印刷。
「吉野川源流－水源地の森」管理		通年	34回	－	散策路周辺の見回り・点検、補修。 (入山者 304名)
「水源地の森交流施設」管理		通年	16回	－	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修。

注)「通年」事業で実施日や受入れ日などを定めることなく適宜対応しているものについては、回数や参加者数等を「-」と記載

収益事業Ⅰ	ミュージアムショップ事業
拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。	
概要	
オリジナル商品(副読本・絵本・ポストカード・楽曲CDなど)、地域の自然・歴史・文化・伝承を紹介した商品(書籍・地図など)、村内で生産された商品(「かわかみの水」・木工品など)、自然観察用品(野帳・ルーペなど)を販売している。また夏休み・企画展示など、季節や時宜に合わせて自然観察用品・雑貨・書籍などを仕入れ、陳列を工夫するなどして販売促進を図った。	

収益事業Ⅱ	受託事業			
他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託し、実施する。				
	受託事業名	委託者	契約期間	概要
	和歌山市民の森管理業務	和歌山市	7/25～12/31	3haの二次林管理作業を実施。
	和歌山市民の森源流体験学習業務	和歌山市	7/25～12/31	10/19・26に和歌山市の公募による参加者に「水源地の森」散策等の学習会を開催。
	水のつながりプロジェクト業務	川上村	5/2～2/28	田植え・稲刈り体験や源流散策など村と平野部との相互交流事業を支援。
	水源地の村づくり関連事業連携推進業務	川上村	8/25～3/27	総合計画の方針に基づき、実効性のある事業連携につながるよう支援。
	神之谷地内混交林誘導整備事業管理業務	川上村	8/25～3/13	混交林誘導整備事業で植栽した苗木の生育状況の確認と評価を支援。
	川上村公共塾ふるさと力編業務	川上村	4/21～3/19	水源地の村において地域を教材化した総合的な学習をコーディネート。
	啓発用間伐材割箸セット製作・配布	森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟	5/8～1/30	間伐材利用の割箸に教材となる啓発パッケージを添えて全和歌山市内小学校4年生に配布。
	原木から子実体への放射性物質の移行に関する検証事業業務	(株)都市環境研究所	10/17～3/23	検討委員会の運営、事業報告書の作成等を支援。
	森林環境学習支援業務	顔の見える松阪の家づくり推進協議会	4/30～1/30	小学校教室等の木質化、森林環境学習を支援。
	顔の見える松阪の家づくり推進協議会支援業務	顔の見える松阪の家づくり推進協議会	6/3～3/18	顔の見える松阪の家づくり推進協議会による取り組みを支援。
	奈良県版レッドデータブック改訂事業に係る分科会活動	環境科学大阪(株)	4/1～3/31	奈良県から奈良県自然環境保全審議会専門委員の委嘱を受けた職員が奈良県版レッドデータブック改訂事業に協力。

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森環境学習ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型プログラムを含めた研修の受け入れを行った。

【吉野川源流—水源地の森】体験プログラムの提供】



「定例水源地の森環境学習ツアー」(10/25)

【森づくり体験プログラムの提供】

・源流学の森等での保全活動



「源流学の森づくり」(11/30)

・山の神 神事



山の神の神事(11/7)

【体験学習を通じた環境学習の実施及び支援】

・団体毎の川上村体験学習



国家公務員研修(5/29)



奈良県フォレスターアカデミー(11/20)

・学校教育団体支援



人間環境大学(8/26)



香芝市立真美ヶ丘西小学校(9/26)

・森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー



桜井市立初瀬小学校での ESD 支援(9/19)



ESD 授業づくりセミナー実践報告会(2/7)

【水源地域の環境保全にかかわる人材の育成】

水源地域の環境保全にかかわる人材育成。山村で培われた知恵、技を「源流学」として共有。

・調査報告会の開催



調査報告会(1/24)

・川上村民の環境クラブ活動への支援



川上村自然観察研究会(6/23)

源流人会会員メニュー充実策の一つとして、遠方でご来村いただけない方や高齢の方にも配慮し水源地の森環境学習ツアーに向けた事前の学習会をオンラインで実施。

また、令和 8 年度のイベントについてオンライン説明会も実施。



公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

川上村内における環境保全行事の催行、当財団の取り組みに連携いただいている団体同士の交流催事の実施、他団体が主催する行事への出展を行うことにより、関係人口の創出につながるよう、水源地の村づくりの啓発を行った。

【水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施】

村の取り組みへの参画への入り口として、体力に合わせて参加できる環境保全活動、地域資源を活用した環境学習会を実施した。

・源流のつどい



草刈りボランティア(5/24)



外来種駆除ボランティア(9/27)

・夏休みワークショップ大集合

8/11 山の日に、村民講師をはじめ、流域や源流地域で活動する17組の施設・団体・個人に出展いただき、流域交流の関係を深める機会とした。今回はトヨタ自動車全国展開する環境保全活動「TOYOTA SOCIAL FES!!」と合同開催とし、紀の川ダム統合管理事務所とも連携し、当館周辺とおおたき龍神湖の2会場を活用することで、経費を押さえつつ、集客効果も高めることができた。



工作体験ワークショップ



村内特産品の物販



タッチプール(和歌山県立自然博物館)



TOYOTA SOCIAL FES!!会場風景

【水源地の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成】

関係人口の創出を目的に、川上村に流域の多くの主体に関心、関わりを持ってもらえるよう、他団体が主催するイベントに出展し、水源地の村づくりを発信した。

・流域等各地への PR キャラバン



「虫まつり」(6/1 橿原市昆虫館)



「水のつながりシンポジウム」(3/14 関西広域連合)



和歌山市役所ロビー公開出前講座(3/17)



紀の川流域の恵みでつながる「和歌浦しらすまつり」(11/11)

・機関誌『ぼたり』刊行

夏・秋・春の定期発刊(63・64・65号)。源流人会会員、村内観光施設、村内図書館、国会図書館ほかへ配布。調査結果など事業活動報告を行うとともに、源流人会会員や川上村民の活動紹介、流域の人の目線での川上村に対するおもいのインタビュー記事をとおして、川上村・源流地域・水源地の村づくりなどの価値や役割を発信した。



季刊誌「ぼたり」への記事掲載を紀の川ダム統合管理事務所長に取材したことをきっかけに、紀の川ダム統合管理事務所との職員間の研修の場を設けることに発展した。




近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所にて


公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業


源流域の自然や歴史の調査・研究を継続するとともに、環境の実態把握と周知をねらいとして、流域をはじめ都市部の人々に協力を呼び掛けた参加型の調査も実施した。また、調査・研究にあたっては、奈良県と川上村が締結する「生物多様性保全・再生の推進に関する連携協定」の目的を日々意識するよう努めた。

【水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施】


・吉野川紀の川しらべ隊

「川上村の暮らしをしらべよう」	
調査内容 下多古の歴史文化資源についてフィールド調査	実施期間、時期 令和7年4月20日
概要 参加者を公募し、17名が参加。 昨年度実施した琵琶の滝モニタリングツアーをもとに、下多古地区の集落内を調査。手力男神社のおかげ灯籠、龍泉寺の会式等を見学し、継承されてきた概要を住民から聴き取りした。 また、これらを活かしたエコツアーの実施等を検討した。	

「川上村で生きものをしらべよう」	
調査内容 川上村東川の生きもの調査	実施期間、時期 令和7年5月17日
概要 参加者を公募し、43名が参加 奈良県と川上村が締結する「生物多様性保全・再生の推進に関する連携協定」の一環として、奈良県景観・自然環境課から講師の派遣を受け、東川地区において昆虫類と鳥類の観察を実施した。 参加者の公募についても、奈良県からの協力を得た。	

「川上村の環境をしらべよう」	
調査内容 川上村西河のコケ植物調査	実施期間、時期 令和7年6月29日
概要 参加者を公募し、14名が参加。 大気汚染度の指標としてコケ植物が判断基準に使えることを利用し、あきつの小野公園において観察会型調査を実施した。 自然観察を通して環境の変化に気づく人材の育成に努めた。	

・村民や大学、教育委員会等と連携した自然調査・人文調査

<p>調査内容</p> <p>・外来イワナ類緊急対策調査</p>	<p>実施期間、時期</p> <p>令和7年8月～令和8年2月</p>
<p>概要</p> <p>川上村漁業協同組合より提供されたサンプルが国内外来種であるニッコウイワナと判明したため、摂南大学農学部と和歌山県立自然博物館の協力を得て生息状況確認の緊急調査を実施した。調査結果は調査報告会(1/24)において、和歌山県立自然博物館により報告され、外来種の啓発が行われた。</p>	


<p>調査内容</p> <p>・吉野川紀の川流域の自然生態調査</p>	<p>実施期間、時期</p> <p>令和7年4月～令和8年3月</p>
<p>概要</p> <p>・紀の川水系の生物相調査</p> <p>和歌山県立自然博物館との「吉野川・紀の川における共同調査に関する覚書」に基づき昆虫・魚類等の生物相を調査。同館の特別展「再発見！紀の川の魚類」に標本提供等の展示協力も行った。</p> <p>・NPO 法人山野草の里づくりの会への協力</p> <p>大和川源流域で里山整備・休耕地利用等の活動を通して環境保全活動を行っている、NPO 法人山野草の里づくりの会主催の第8回里山保全ボランティア養成講座および観察会に、職員を派遣・協力した。</p> <p>・NPO 法人さとやまからからへの調査協力</p> <p>葛城山麓の「秋津穂の里」で農薬栽培に取り組んでいるNPO 法人さとやまからの依頼を受け、同地の昆虫相調査に協力。調査結果は調査報告会(1/24)において、同法人により報告された。</p>	 <p>特別展「再発見！紀の川の魚類」(7/19～8/31)</p>  <p>NPO 法人さとやまからからへの調査協力</p>

<p>調査内容</p> <p>・山の神の現状記録・ヒアリング調査</p>	<p>実施期間、時期</p> <p>令和7年10月～令和8年3月</p>
<p>概要</p> <p>京都大学学生による「山の神」の卒業研究に際して、効率的に概要を把握できるよう、調査対象を村内6カ所に絞り、モデルに調査を実施するにあたり協力した。</p> <p>住民からは、山の神の祠の状況、祭祀の現状、山の神への信仰や祭祀について、ヒアリングを行った。</p>	

調査内容	実施期間、時期
<p>・川上村の生活・風習など民俗学的変貌調査</p> <p>概要</p> <p>・郷土料理の再現とヒアリング調査 「ふるさとの味を訪ねて(発行:教育委員会/平成元年)」を活用し、コミュニティづくりや地域資源としての価値を考える機会として、郷土料理に係るグループと協力し、郷土料理を再現しながらヒアリング調査を行った。また、地域おこし協力隊とも村内外・世代間の交流も行った。</p> <p>・井光地区の秋祭りのヒアリング調査と民具の確認 コミュニティづくりや地域資源としての価値を考える機会として、井光地区の秋祭りで行われていた「お渡り」について、当時使用されていた衣装や道具等の蔵出しを兼ねて、住民にヒアリング調査を行った。</p> <p>・デイサービス利用者へのヒアリング調査 匠の聚フォトコンテスト入賞作品巡回展の期間を活用し、川上村社会福祉協議会のデイサービス利用者に、森と水の源流館内の民俗資料の展示を見学いただきながら、展示品を通して昔の生活・風習などについてのヒアリング調査を行った。</p>	<p>令和7年4月～令和8年3月</p>  <p>郷土料理の再現とヒアリング調査(10/23)</p>  <p>井光地区の秋祭りのヒアリング調査と民具の確認(11/6)</p>  <p>デイサービス利用者へのヒアリング調査(2/27)</p>


【「吉野川源流-水源地の森」自然実態調査の実施】

・水源地の森保全対策調査

調査内容	実施期間、時期
<p>希少魚類カジカ大卵型の生息状況調査</p> <p>概要</p> <p>昨年度に引き続き、摂南大学と連携し、学生の卒業研究として水源地の森における、希少魚類カジカ大卵型の保全を目的とした生息実態調査に協力した。調査結果は調査報告会(1/24)において、調査に従事した大学教員ならびに学生から報告され、源流域の魚類保全の重要性が啓発された。</p>	<p>令和7年4月～令和8年3月</p> 


【「吉野川源流-水源地の森」自然実態調査の実施】

・水源地の森下層植生調査


<p>調査内容</p> <p>「吉野川源流-水源地の森」の下層植生調査</p>	<p>実施期間、時期</p> <p>令和7年6月～令和7年10月</p>
<p>概要</p> <p>平成18年度より継続しているモニタリング調査。 「水源地の森」内に設置した防鹿柵の内外における下層植生を比較することで、ニホンジカの食害による影響と、防鹿柵内の植生の回復状況について調査した。</p>	

【源流部における斜面崩壊地での対策実態調査】

・ミズナラの集団枯死に伴う環境変化等の観察

<p>調査内容</p> <p>・ミズナラのナラ枯れ状況確認調査</p>	<p>実施期間、時期</p> <p>令和7年6月～令和7年10月</p>
<p>概要</p> <p>令和6年度から継続しているミズナラのナラ枯れ被害状況の調査。 環境省近畿地方環境事務所吉野管理官事務所の依頼で、大台ヶ原での被害状況も併せて調査し、同地で調査研究を実施している大阪公立大学と情報交換を行い、加害昆虫の移動経路の情報を収集した。</p>	

・水源地の森における防鹿柵調査

<p>調査内容</p> <p>・防鹿柵による樹林更新調査</p>	<p>実施期間、時期</p> <p>令和7年4月～令和8年3月</p>
<p>概要</p> <p>ミズナラ集団枯死からの樹林回復ならびに生態系の仕組みを応用した森林の管理手法を検討・確立を目的とした試験的取り組み。 森守募金を活用し、水源地の森内にニホンジカ等の野生動物の食圧をコントロールする期間限定型防鹿柵の設置及び樹林更新状況のモニタリング調査を実施した。</p>	

公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドの維持管理・運営を行った。

【「森と水の源流館」管理】

指定管理協定にもとづき「森と水の源流館」の維持管理・運営管理を行った。

・期間展示「分解者 ー生態系を支えるものたちー」

(10/4 ~12/5)

枯れ木や落ち葉、動物の糞や死骸など動植物が由来となる有機物が様々な生きものたちに分解されることで生じる森栄養循環の仕組みを、生態系の構造(食物網)の視点、分解段階の違いを生きものの役割から解説し、栄養の循環にも生物多様性が寄与していることを紹介した。



・ミニ展示・季節展示

5回実施。丹生川上神社創祀1350年に関するミニ展示は、奈良県立橿原考古学研究所と吉野地域日本遺産活性化協議会からも協力頂いて実施した。上社祭事と合わせながら、当館と上社を行き来していただくよう開催期間に工夫した。季節展示は以下のとおり。



ミニ展示でのミュージアムトーク (10/11・13)

ミニ展示:職員が発見した研究成果などをいち早くトピックス化し、誘客を図るための展示		
名称	期間	内容
水への祈りの場 吉野・川上村	令和7年10月2日 ~10月19日	丹生川上神社創祀1350年に関する展示。資料借用等で奈良県立橿原考古学研究所と吉野地域日本遺産活性化協議会に協力頂いた。ミュージアムトーク実施(20名参加)
季節展示:職員が季節ごとに研究成果、村内・流域の自然、文化等の紹介、館のPRなど誘客を考えて行う展示		
名称	期間	内容
柿の葉寿司のふるさとー川上村ー	令和7年4月4日 ~6月29日	山村の暮らしの知恵の結集ともいえる「柿の葉寿司」を知る展示として、村内店舗による組合活動や食べ比べ商品開発の経緯などを紹介した。
古代の丹生川上神社上社	令和7年7月1日 ~9月30日	丹生川上神社創祀1,350年に関する展示。当社で行われていた水の祭祀と、当社が発祥地とされる絵馬を紹介した。
落ち葉に誘われて	令和7年10月4日 ~12月5日	村内の森で集めた落ち葉に触れ、その感触、香りを楽しむ展示を行った。
資料紹介 土倉家の山林売券	令和8年2月7日 ~3月31日	明治時代の山林経営についての文書を展示。土倉庄三郎とともに奈良県の近代化に功績があった阪本仙次についても紹介した。

・階段ギャラリー展示ほか

「階段ギャラリー」では、移住者4名による川上村の暮らしの風景写真の展示「川上村写真展ー移るくらし 移る景色ー」(8/11～19)を実施した。

「交流広場」では、ESD 実践に取り組んだ橋本市立高野口小学校や桜井市立初瀬小学校による展示報告をいただくなど、館内空間を活用して時事に合わせた展示を行った。



「水の学び新聞」(7/10～9/27)



「初瀬川プロジェクト」成果発表 (12/19～3/31)

・森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟 森と水の源流館入館料補助事業

和歌山市から水源地を訪れる機会をより多く創出することを目的として、夏休み期間中、和歌山市内の小・中学校に在学の子どもと、同伴の家族、グループの入館を無料にするキャンペーンを同議員連盟が主催。市広報誌、SNS 及び新聞、ミニコミ誌等で告知。期間中に小・中学生21人、一般27人が来館。入館料は同議員連盟によって負担された。



【「吉野川源流ー水源地の森」管理】・【「水源地の森交流施設」管理】

指定管理協定にもとづき「水源地の森」及び「水源地の森交流施設」(休憩小屋・管理棟)の定期的な見回り・点検・清掃・修繕を実施した。



「水源地の森」内の木橋修理



「水源地の森」内の散策道修繕

収益事業（受託事業）

流域への活動を展開する中、他団体からの依頼にもとづき対応可能な業務を受託、実施した。

【和歌山市民の森管理業務・源流体験学習業務】(和歌山市)

川上村と「水源地保護に関する協定」を結ぶ和歌山市から、川上村の伐採後の天然林の二次林3haの管理を受託。年2回、和歌山市民による源流体験会を開催した。



和歌山市民の森管理業務



源流体験学習会(10/19・26)

【啓発用間伐材割箸セット製作・配布】(森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟)

間伐材を利用した割箸(5膳)を教材となる啓発メッセージ入パッケージにして、和歌山市内のすべての公立小学校(53校)の4年生に配布した。



【水のつながりプロジェクト業務】(川上村)

川上村と大和平野土地改良区が共催する吉野川分水受益地と水源地地域の交流事業。橿原市立鴨公小学校と川上村立かわかみ源流学園の体験交流、大和平野から参加者を一般公募して実施する水源地地域のトレッキングを支援し、吉野川分水による地域のつながりの共感につなげた。



稲刈り体験(10/20)(橿原市内)



源流トレッキング(8/8)

【水源地の村づくり関連事業連携推進業務】(川上村)

総合計画で示された目標達成のために、村民の声を常に把握しながら、今何を大切にすべきか、解決すべき課題は何かなどを、各課等担当者が日々ふりかえりながら事業連携につながるよう助言・提言等の支援を行った。



懇話会「みんなで応援しあう集い」(3/27)

【神之谷地内混交林誘導整備事業管理業務】(川上村)

奈良県が川上村に委託する混交林誘導整備事業において、令和5年度事業地に植栽した苗木の生育状況確認調査を行い、生育状況と防鹿柵の効果を評価し、林相の変化を予測するとともに、管理手法の提案を行った。



【川上村公共塾ふるさと力編業務】(川上村)

「かわかみ源流学園」において、児童・生徒たちが、ふるさとを愛する心を持ち、水源地の村づくりを理解し、郷土に誇りと自信を持った次代を担うに相応しい人材を育むことをめざし、全学年での「総合的な学習の時間」のサポートを行った。



4 学年 「水源地の森」で学習(6/2)



9 学年 村議会議員との意見交換(10/24)

【森林環境学習支援業務】(顔の見える松阪の家づくり推進協議会)

橿田川流域に位置する三重県松阪市においては、森林を守り林業・木材関連産業を活性化することを目的として「顔の見える松阪の家づくり推進協議会」が設置されている。この協議会が松阪市とともに取り組む、市内小学校を対象とした森林環境学習の取り組みの支援を行った。



森林環境学習のようす(6/3)



壁面の一部を木質化した小学校

【顔の見える松阪の家づくり推進協議会支援業務】(顔の見える松阪の家づくり推進協議会)

「顔の見える松阪の家づくり推進協議会」による、地域材利用促進に向けた、内装材等木質化支援制度の構築及び、制度の運用・啓発にあたり支援を行った。



木質化支援制度のPRのようす(11/23)



木質化補助金を活用した店舗(内観)

パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

野鳥や昆虫など
生き物の観察会

17日、川上村で
小学生以上対象
森と水の源流館（川上村）
と県は5月17日午後1時から、同村東川の匠の聚（むら）などで同村に生息する生き物について調べる観察会を企画。
小学生以上を対象で、日本野鳥の会奈良支部のメンバーや同館のスタッフらを講師に村内の集落を歩きながら野鳥や昆虫を観察する。

県と川上村が3月に結んだ「生物多様性保全・再生の推進に関する連携協定」に基づき催して、担当者は「いろいろな生き物に身近に触れながら生物多様性の大切さを学んでほしい」と話している。
定員40人。申し込み締め切りは24日（定員に満たない場合は25日以降も先着順で受け付け）。参加費千円（森と水の源流館「源流人会」会員無料）。
申し込み、問い合わせは同館、電話0746(52)0888。

集落跡の風景残す
草刈り参加者募集

川上24日
吉野川の水源地、川上村の環境教育施設「森と水の源流館」は、同村の「未来への風景づくり」見本園で24日に行う草刈りボランティア20人を募集している。
現地は吉野川右岸の白屋集落跡。ダム建設に伴い地滑りが発生して住めなくなり、全戸が村内外に移転した。丁寧に積まれた石垣などが残り、暮らしの記憶を未来に伝えようと、企業団体等も協力し植樹活動や草刈りなどを継続している。
午前10時～午後3時。作業内容は「各人ができる範囲」で、小学生は保護者同伴で参加できる。源流館スタッフの指導で外来植物の学習と駆除、生き物観察なども行う。
参加無料。昼食持参。問い合わせ・申し込みは源流館、電話0746(52)0888。

見本園草刈り
参加者を募集

24日、白屋地区
森と水の源流館（川上村）の
「平」は、24日に同村の白屋地区で開催するイベント・未来への風景づくり見本園草刈りボランティアの参加者を募集している。
参加費は無料。
白屋地区は奈良時代からの伝承が残る古い集落だったが、2003年に大滝ダムの試験貯水で地滑りが発生し、全戸（37世帯77人）が移転した。石垣を積み上げた美しい景観や在来種が危機にある。
同館はこのため、毎年この時期にイベントを実施。草刈りと外来種の駆除をしながら、自然観察も楽しんでもらう。
作業は24日午前10時～午後3時。白屋地区駐車場集合。弁当や飲み物、傘、タオル、雨具、保険証などを持って参加し、伸びた雑草を鎌で刈り、繁雑地を広げている特定外来生物のナルトサワギクや、石垣を荒らす中国原産のニワウルシなどを丁寧に抜いていった。
2年前に大阪府から五條市に移住し、初めて参加したという藤本有紀さん(50)は「外来種がかつての風景を変えているのがよく分かった」と話していた。

白屋地区草刈り景観守る
川上ボランティア外来種駆除



外来種を刈って集める参加者ら（川上村で）

み物、傘手、タオル、雨具、保険証などを持って参加し、伸びた雑草を鎌で刈り、繁雑地を広げている特定外来生物のナルトサワギクや、石垣を荒らす中国原産のニワウルシなどを丁寧に抜いていった。
2年前に大阪府から五條市に移住し、初めて参加したという藤本有紀さん(50)は「外来種がかつての風景を変えているのがよく分かった」と話していた。

2003年に川上村の大滝ダムの試験貯水で起きた地滑りにより、住民が移転を余儀なくされた同村白屋地区で24日、景観を保全するための草刈りが行われた。
同地区では、貯水が始まった直後から住宅地や道路などに亀裂が生じ、全37世帯が移転。今も傾斜地に石垣を築いた階段状の住宅跡が残っている。荒廃を防ぐため、同村は14年から、ボランティアを募って草刈りや植樹を行ってきた。
今回は同村にある「森と水の源流館」が企画。14人が参加し、伸びた雑草を鎌で刈り、繁雑地を広げている特定外来生物のナルトサワギクや、石垣を荒らす中国原産のニワウルシなどを丁寧に抜いていった。
2年前に大阪府から五條市に移住し、初めて参加したという藤本有紀さん(50)は「外来種がかつての風景を変えているのがよく分かった」と話していた。

シアターの映像で水源地の村について学ぶ参加者
23日、川上村宮の平の「森と水の源流館」



川上・吉野「山と川の学校」第2弾

森林の重要性知って

県内児童と保護者10人 水の循環など学ぶ

県条例に基づき、「山の日・川の日」の啓発イベント「山と川の学校」奈良の豊かな水めぐり旅」の第2弾「山を知り、山に癒やされる」が23日、川上村宮の平の「森と水の源流館」などで開かれた。県内の小学生と保護者10人が参加し、森林の重要性を学んだ。

館の源流の森を再現したシアターで開会式が行われ、県水・大気環境課の豊田雅人課長補佐が「山と川の役割と重要性を知り、自然を守る気持ちを持ってもらえたら」とあいさつ。

続いて、水源地の村としての取り組みが紹介され、参加者は水を育む森の役割など水の循環をはじめ、森や川に住む魚や動物、共生してきた人々の営みなどを映像と展示で学んだ。

館内見学後、バスで丹生川上神社上社や吉野町の宮滝河川交流センターを巡り、吉野ヒノキを使ったキヤンドルホルダー作り、ウオーキングしながら森林セラピーを体験した。

橿原市の小学3年、吉田結翔さん(8)は「虫や魚など生き物が大好きなので楽しみ」と目を輝かせて見学していた。

写真をもっと
奈良新聞デジタル

神社川上 350年 丹生川上神社

川上村迫の丹生川上神社上社の創祀1350年記念祭に合わせて、同村迫の「森と水の源流館」は19日まで、特別展示「水への祈りの場」を開催し、人々の祈りの形を紹介している。

遺物から見る

「森と水の源流館」で特別展

人々の祈り

丹生川上神社は白鳳4(675)年、天武天皇の夢のお告げによって創建されたと伝わる。奈良時代から室町時代にかけて朝廷などが雨乞い・止雨を祈った記録がある。県内には上社と中社(東吉野村)、下社(下市町)がある。上社の旧境内地は大滝ダム建設に伴い水没し、現在地に移転した。水没前の発掘調査で見つかった縄文遺跡「宮の平遺跡」には石を環状に立てた祭祀遺構などがあった。4千年前もこの土地が祈りの場所だったことがわかったという。

特別展示では県立橿原考古学研究所の協力で、この発掘調査で見つかった奈良時代(8世紀)の土器の破片や室町時代(15世紀)の懸仏(かけぼとけ)などを展示。懸仏は神仏習合の思想に基づいて作られ、神社や寺に奉納されたという。11日午後1時半〜と13日午前10時〜の2回、成瀬匡章・川上村文化財保護審議会長のミニシアムトーク「1350年の

室町期の懸仏など展示



時をつないで」(30分、先着20人)がある。また、上社(望月康慶宮司)は今日(5日)に1350年奉祝大祭を執り行い、12日は午後1時の奉納奉告祭の後、県内外の8個人・団体が奉祝のコーラスや和太鼓などを奉納する。源流館の開館時間は午前9時〜午後5時。水曜休み。入館料は高校生以上400円、小学生200円。問い合わせは同館、電話0746(52)08888。

写真を撮りもつと
奈良新聞デジタル

宮の平遺跡で出土した懸仏などを展示=9日、川上村迫の森と水の源流館

特別展示「水への祈りの場」吉野・川上村 19日まで、川上村宮の平、森と水の源流館。大滝ダム建設により水没した同村の丹生川上神社旧境内から見つかった発掘品や、宮の平遺跡で奈良時代から江戸時代にかけて祭りで使われていた道具などを展示している。9〜17時。15日休館。大人400円、小学生200円。13日にはミニシアムトークも。先着20人で申し込み必要。同館(0746・52・08888)。

県主催自然観察イベント

生き物300種見つけた！

最難関課題の達成者表彰

県内の生き物を撮影して投稿する県主催の自然観察イベント「なら 生き物いっばい見つけ隊」の最難関ミッション「県内で生き物を300種投稿しよう！」を16の個人とチームが達成した。表彰式がこのほど県庁で開かれ、三宅浩環境森林部長が、出席した4人と1組の努力と情熱をたたえた。



表彰状を手にしたミッション達成者4人と1組。チーム「いつき・さとる・ママ」の3人は「いっばい虫を見つけて楽しかったです」＝県庁

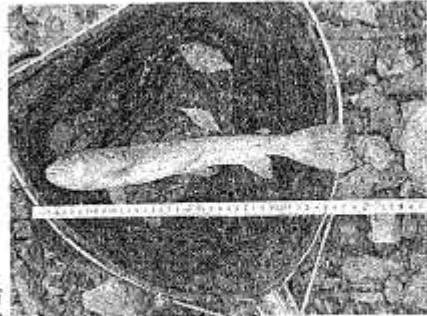


投稿された生き物の画像の一部（榎田さんのスマートフォンから）＝県庁

今夏（期間は7～9月）初めて開催。生き物コレクション・アフリ「Bio me（バイオーム）」を活用し、県内で20種▽橿原市昆虫館周辺で5種▽森と水の源流館（川上村）周辺で5種▽県内で300種1の各ミッションに計1147人が挑んだ。投稿総数は2万5311点で、昆虫を中心にカエル、ツユクサなど4223種の動植物が写っていた。

御所市の自宅近くの畑で撮影した榎田高士さん（77）は「締め切りギリギリでの達成だったが、うちのファミリーにこんな生き物がいるという証明ができた」と満足げ。妻で協力者の敬子さん（73）は「県も粋なことをするね」とユニークな取り組みを評価していた。

2005年11月に三之公川で見つかったイワナ(源流館提供)



森と水の源流館 調査報告会

24日、川上で

吉野川の水源地保全に取り組み川上村の環境教育施設「森と水の源流館」は24日午後2時から、同村迫の川上総合センターやまぎきホール研修室で、令和7年度調査報告会を行う。定員は申し込み制先着40人。

発表予定は5件で、吉野川源流域におけるカシカ(魚類)大卵型の生息状況▽水源地の森で確認された外来イワナの現状▽地域文化遺産の保護を旨とした3Dデータの構築手法と現状報告▽源流地域の保全活動

▽山の神信仰について一研究者やNPOなどが報告する。

源流館は和歌山県立自然博物館、摂南大学と昨年11月、台高山脈から吉野川に流れる三之公川で緊急調査を実施し、体長40センチ超のイワナ成魚を確認した。本来、同河川で生息していない種だが繁殖している可能性が高いという。報告を通して、防除など今後の方向性も模索する。

参加費無料。申し込み・問い合わせは源流館、電話0746(52)08888。

水曜休み。

川上村

水源地域保全へ考察

外来種侵入状況など報告



外来イワナの生息状況などが報告された調査報告会=1月24日、川上村迫の川上総合センター

水源地域の現状と課題についての取り組みなどについて考

日、川上村であり、生態系を交える外来生物の侵入状況などが報告された。

同村の環境教育施設「森

と水の源流館」が年1度行う報告会で、同館と連携して調査研究活動を行う大学や博物館、NPOなどが五つの異なるテーマで発表した。村民や教育・行政機関の関係者ら県内外から43人が参加した。

台高山脈から吉野川に注ぐ三之公川の調査で昨年11月に見つかったイワナについて、和歌山県立自然博物館の平嶋健太郎主幹が発表。紀伊半島在来種のヤマトイワナとは異なり、繁殖が盛んなニッコウイワナと特定。エサの取り合いなどでアマゴと競合したり、

交雑したりする可能性が高く、「在来個体群の遺伝子がかく乱される」と警鐘を鳴らした。

すでに三之公川以外での河川でも発見が報告され、平嶋主幹は「川上村は今、外来種天国になっている。この10年に何もせずにいると生態系は元に戻らない」と危機感を募らせ、防除体制の整備などを提議した。

また、摂南大学応用生物科学科の国島大河講師らは環境省と県のレッドリストで絶滅危惧種に選定されている魚類カシカの生息状況を発表。カシカの生息地は川上村が紀伊半島の南限で、吉野川源流域のシンボルとして保全の必要性を訴えた。「源流域の生き物は、水温の変化や人間が捨てるごみなど小さな変化に対応できずに絶滅してしまう可能性が高い」と指摘した。

明治から大正にかけて、吉野の近代化を導いた2人の実業家、土倉庄三郎(1840~1917)と阪本仙次(1869~1934)のつながりを証明する1枚の古文書が31日まで、川上村迫の森と水の源流館で展示されている。

吉野近代化の先駆者

川上・森と水の源流館で31日まで展示

土倉庄三郎

古文書が示す“接点”

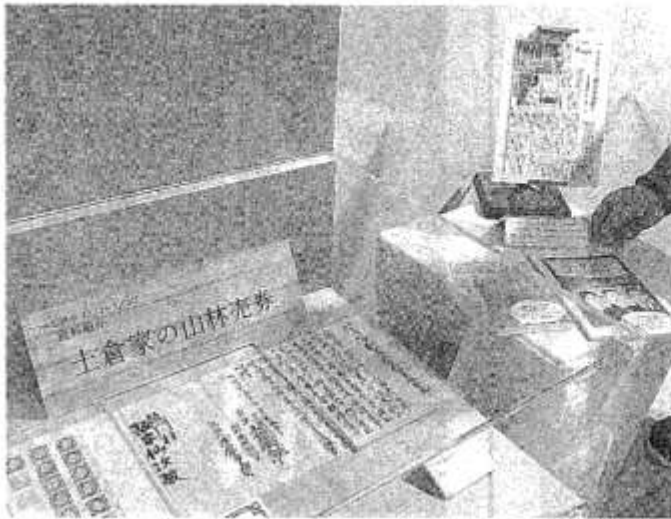
阪本仙次

エピソードはあまり残っていない。

源流館で公開中の古文書は1908(明治41)年の山林売買の契約書で、土倉庄三郎の頭影団体メンバーで同館職員の成瀬匡章さんが古物商のネット販売で見つけた。現在の金額はすると2~3億円の取り引きとみられるが土地面積などの記載はない。

土倉は川上村大滝の林業家で、吉野林業の体系化を成し遂げ、山林経営の富を分配して教育や地域のインフラ整備に貢献した。阪本は龍門郷(現吉野町)生まれで林業家「サカセン」の家
同館職員「人物身近に感じて」
成瀬さん
督を継ぎ、29才で吉野材木銀行頭取、35才で龍門村長、42才で吉野軽便鉄道社長など幅広く活躍した。

吉野を代表する名士の2人が吉野林業の実態に応じた法整備に協調したことや、鉄道開設の夢のバトンを引き継いだことなどが想像されるが、実際の交流



吉野を代表する土倉と阪本の名が出る山林売買の契約書。川上村迫の森と水の源流館

入館料は高校生以上400円、小中学生200円。午前9時~午後5時。水曜休み。問い合わせは同館、電話0746(52)0888。



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

<https://www.genryuu.or.jp> e-mail:morimizu@genryuu.or.jp